

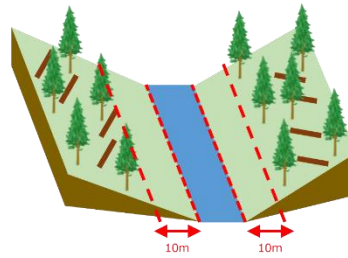
## 混交林誘導整備事業整備標準仕様書

1. この標準仕様書は、奈良県が御所市に委託する混交林誘導整備事業の整備に適用するものとし、御所市は、以下の各号を受注者に遵守させることとする。
2. 伐倒にあたっては、次の各号を遵守することとする。
  - (1) チェーンソー作業について、労働安全衛生法第59条第3項並びに労働安全衛生規則第36条第1項第8号に基づく「伐木等業務（チェーンソー）特別教育」を受講した者のみに従事させ、未受講者に従事させてはならない。
  - (2) 奈良県が策定する「奈良県伐採・更新施業のガイドライン」（令和4年4月）に基づき作業を行うこととすること。
  - (3) 残存木を損傷しないよう注意しなければならない。
  - (4) 伐倒、玉切り等の作業に使用するチェーンソーのチェーンオイルについては、環境に優しい植物性で生分解性のものを使用すること。
3. かかり木はそのまま放置することなく、地面に引き落としてからその後の作業を行わなければならない。なお、かかり木の処理については、労働安全衛生規則第478条を遵守すること。
4. 所有者の許可なく整備により発生した伐採木（以下「伐採木」という。）を処分してはならない。
5. 整備により発生した伐採木は、小運搬及び集積できる程度の長さに玉切りを行う。搬出困難地においては、幹が地面に付く程度まで枝払いし、丸太をおおむね水平方向に並べ、切り株等を利用して転落、流出しないように固定し整理するとともに、群状択伐地及び気象害等被害森林整備箇所においては、当該箇所の周縁部など、できるだけ苗木の植栽の支障とならない場所に集積を行うこととする。
6. 伐採木の搬出及び運搬の実施にあたっては、合法木材供給事業者認定団体による認定を受け、発電用木質バイオマスの認定に係る認定番号を取得のうえ、搬出範囲内の伐採木を奈良県木質バイオマス安定供給協議会が指定する受け入れ先へ運搬することとする。また、その受け入れ先に対し、事前に納品書作成依頼書及び確認書（市町村で受理された伐採及び伐採後の造林の届出書の写し又は市町村が作成する伐採及び伐採後の造林の計画の適合通知書の写し）を提出することとする。
7. 苗木の植栽を実施する際、植栽区域に天然更新により発生した有用広葉樹等の後継稚樹で樹高が35cmに相当するものが確認できる場合は、発注者に協議したうえで当該稚樹を植栽本数に含めることができる。ただし、伐倒作業等により当該稚樹を損傷した場合は、スギ・ヒノキ以外の地域の特性に応じた樹種を、発注者に協議のうえ必要本数植栽すること。また、苗木の成長を促す観点から、群状択伐地及び気象害等被害森林整備箇所の周縁部付近への植栽は行わないこととする。

8. 植栽した苗木については、シカ等による被害を想定して、獣害対策を実施するものとする。獣害防護柵の仕様は、別添「食害防止ネット仕様」のとおりとし、使用する資材の材質等は、現地の自然条件や景観に配慮するものとする。なお、7により天然更新により発生した稚樹を植栽本数に含める場合、当該稚樹にも上記獣害対策を施すものとする。

9. 常水のある谷における伐倒は、直近の雨季までの間に確実に搬出される場合でない限り、谷に接する部分から水平距離で概ね10メートルの範囲は対象区域としない。

やむを得ず伐倒を行う場合は、整備実施者の責任及び費用により、谷に接する部分から水平距離で概ね10メートルの範囲の外まで伐倒木を移動させることとする。ただし、高低差がある等の理由により、高水位時においても伐倒木が流出しないことが確実である場合はこの限りでない。



10. 整備を実施するにあたって、環境の保全に十分留意すること。

11. 作業区域外の林内立入は厳に慎むことはもちろん、作業区域内における火気については十分留意し、山火事等の発生責任を問われることのないよう努めること。

12. 作業員、他の山林労働者並びに現場付近立入者に対して、十分注意し、事故のないように努めること。

13. 作業に際しては、その区域について土地所有者の立会等により誤りのないようにする。

14. 次の各号に要する費用は、整備実施者の負担とする。

- (1) 作業に伴い既設の林内歩道の刈払い等を行う費用
- (2) 林地、林木及び作業員等に対する危険防止費用
- (3) 検査並びに監督に立会うための費用及び検査手直しに係る費用
- (4) 常水のある谷から、水平距離で概ね10メートルの範囲において、整備実施者の判断により伐倒を行い、当該範囲の外まで伐倒木を引き上げる費用
- (5) 7のただし書きによる伐倒作業等により稚樹を損傷した場合の植栽及び獣害対策に要する費用

15. 契約区域外の立木等を損傷、誤伐した場合は、整備実施者の費用負担により自ら復旧又は弁済するものとする。この場合において、整備実施者は復旧に要した費用に関して委託者に異議を申し立てることはできない。

16. 作業管理を行い、記録を保管し、検査時に提出しなければならない。

17. 労働安全衛生法第59条に基づく安全衛生教育を行うとともに、労働安全衛生規則第477条から第485条の規定に基づく危険の防止措置を図らなければならない。また、事業の特殊性から作業が広範、単独となり、安全管理が困難であることから、毎日の始業時にも作業の安全について徹底するとともに、作業員同士の連絡についても考慮すること。
18. 整備実施箇所ごとに整備実施区域面積が0.1ha～2ha未満で1地点以上、2ha以上3ha未満で2地点以上、以降1haごとに1地点以上追加して標準的な場所を選定し、整備着手前及び整備完了後の状況（群状択伐、択伐及び樹下植栽、気象害等被害森林、植生回復困難森林、被害伐採木の集積、植栽、獣害対策、環境整備）を写真により記録し、提出しなければならない。
19. この他、混交林誘導整備事業整備特記仕様書を参考とし、適宜仕様条件を附して発注することとする。

# 混交林誘導整備事業整備特記仕様書

この特記仕様書は、奈良県が委託する混交林誘導整備事業の整備に適用する。

整備箇所：事業実施箇所一覧のとおり

## 1. 植栽

植栽する苗木の仕様は以下のとおりとする。

(1) 樹種：イロハモミジ、ヤマザクラ、クリ等

(2) 本数：500本/ha以上

苗木の形態：コンテナ苗300cc・ポット苗

(3) 苗長：地上部35cm以上

(4) 近接市町村で採取した種子から生産した苗木であること。

(5) 原則、苗木生産の事業主が奈良県に林業用種苗生産事業の登録を受けている者で、広葉樹コンテナ苗生産実績が5年以上ある者から購入すること。ただし、これにより難しい場合はこの限りでない。

(6) 納品書に苗長、苗木の種子の採取地（〇〇県△△市）を記載すること。

(7) その他、発注者の指示に従うこと。

2. 獣害対策施設の仕様については、現地の自然条件や景観に配慮した資材の選定を行い、適宜仕様条件を附して発注することとする。

3. 伐倒の安全、および植栽樹種の育成のため、施業対象林内に存在する蔓等を、可能な限り伐採すること。

混交林誘導整備事業 内訳表

区分	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	明細表	備 考
直 接 工 事 費	整備	1.02	ha			第1号明細表	
	計						
諸 経 費	共通仮設費		%				令和 6 年版治山林道必携 積算・施工編より
	現場管理費		%				令和 6 年版治山林道必携 積算・施工編より
	一般管理費		%				令和 6 年版治山林道必携 積算・施工編より
	計						
設 計 工 事 価 格							
消 費 税 相 当 額		10	%				
本 工 事 費 計							

第1号						
明 細 表						
整備						
名称	規格	数 量	単位	単 価	金 額	摘要
更新	搬出なし	0.20	ha			単価表No.1
(更新) 地ごしらえ	草刈機・チェーンソー併用	0.20	ha			単価表No.3
環境整備	本数率30%	0.82	ha			単価表No.2
獣害対策		0.20	ha			単価表No.6
合計		1.02	ha			

No.1

## 単価表

更新（搬出なし）

1ha当たり計上

構造

種 別	数 量	単 位	単 価	金 額	明細表及び 単価表番号	備 考
群状択伐	1.00	ha			単価表No.2	
伐採木の集積	1.00	ha			単価表No.4	
植栽	1.00	ha			単価表No.5	（獣害対策を除く）
合計	1.00	ha				

No.2

## 単価表

### 群狀択伐/間伐

100本当たり計上

## 構造

令和6年度森林整備保全事業標準歩掛

種 別	数 量	単 位	単 価	金 額	明細表及び 単価表番号	備 考
伐倒費						【伐倒木を地面に引き落とす工程を含む】
特殊作業員		人				
普通作業員		人				
小 計						
諸雑費 (労務費に対して)		%				チェーンソー損料、燃料費等
計						
1 本当たり                      0 (円／100本)                      ÷                      100 (本)                      =                      円						
ha当たり成立本数            1,710    (本)						
群状択伐						
ha当たり伐倒本数	1,710 (本) ×	100	(%)	=	1,710 (本)	(本数率100%)
ha当たり	1,710 (本) ×		(円／本)	=		0 (円)
間伐						
ha当たり伐倒本数	1,710 (本) ×	30	(%)	=	513 (本)	(本数率30%)
ha当たり	513 (本) ×		(円／本)	=		0 (円)



No.3

## 単価表

地ごしらえ

ha当たり計上

構造 令和 6 年度森林整備保全事業標準歩掛

令和6年度森林整備保全事業標準歩掛

[illegible]

No.4	<p style="text-align: center;"><b>単価表</b></p> <p>伐採木の集積 <span style="float: right;">100本当たり計上</span></p>
------	--

構造 令和 6 年度森林整備保全事業標準歩掛

100本当たり計上

令和6年度森林整備保全事業標準歩掛

種 別	数 量	単 位	単 価	金 額	明細表及び 単価表番号	備 考
枝払費						【幹が地面に付く程度までの 工程を含む】
特殊作業員		人				作業の難易度
普通作業員		人				作業の難易度
小 計						
諸雑費 (労務費に対して)		%				チェーンソー損料、燃料費等
計						
玉切費						【小運搬・集積できる程度の 長さに玉切る工程を含む】
特殊作業員		人				作業の難易度
普通作業員		人				作業の難易度
小 計						
諸雑費 (労務費に対して)		%				チェーンソー損料、燃料費等
計						
片付費						【丸太を水平方向に並べ、転落、流 出しないように集積または固定し整 理する工程及び20m程度の小運搬を 含む】
普通作業員		人				作業の難易度
小 計						
諸雑費 (労務費に対して)		%				木回し等損料
計						
合 計						
1 本当たり		÷	100	=		円
<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;"><b>群状択伐</b></div> ha当たり集積本数    1,710   (本) ×    100 (%) =    1,710   (本) <b>(本数率100%)</b>						
ha当たり	1,710	(本) ×	(円／本)	=		<b>0(円)</b>



No.6

## 単価表

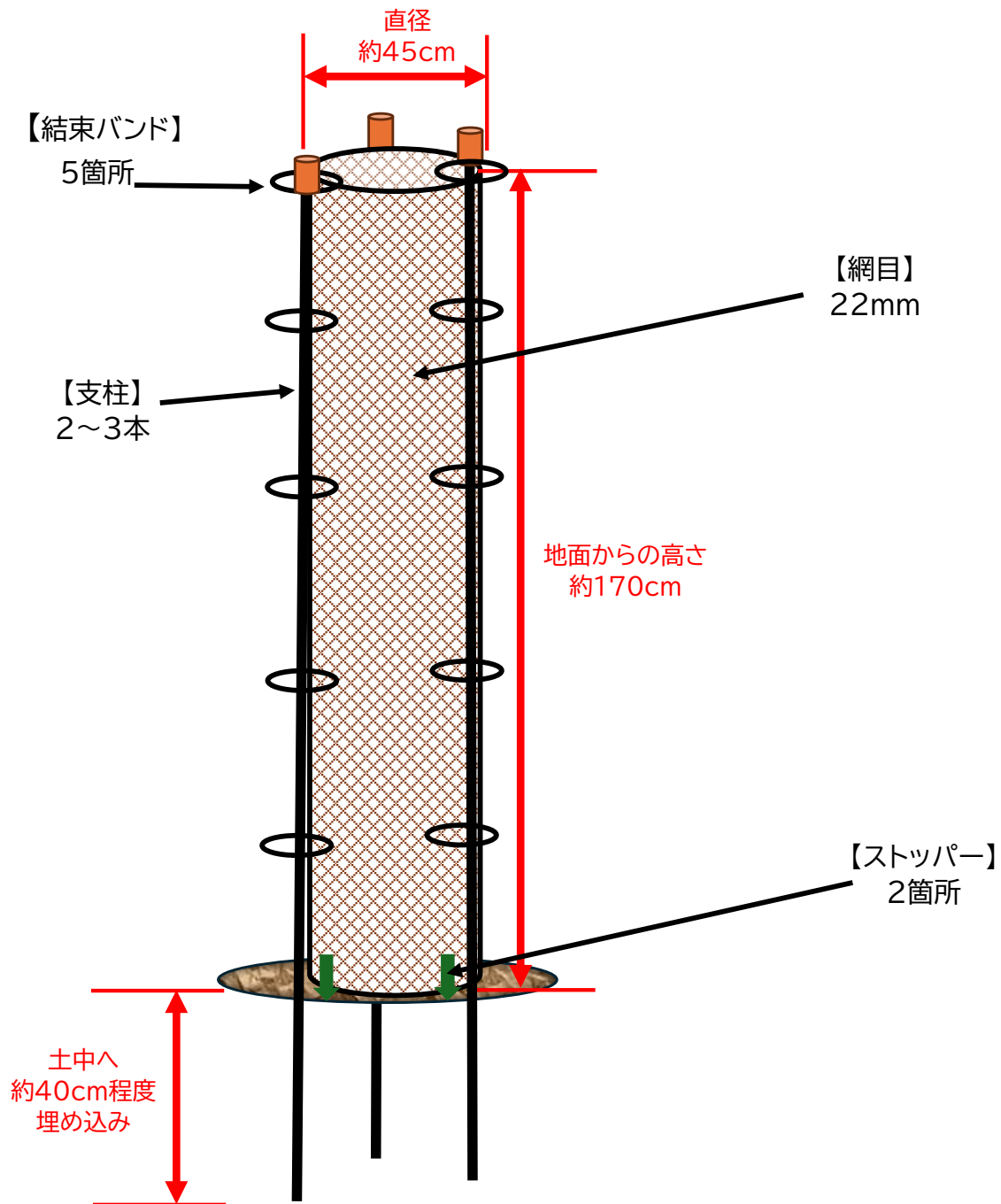
## 獣害対策

## 構造

令和 6 年度森林整備保全事業標準歩掛

種 別	数 量	単 位	単 価	金 額	明細表及び 単価表番号	備 考
獣害対策設置						100本当たり計上
資 材	100.00	セット				(サブリガードネット HP22) 100枚 高1.7m * 幅1.45m * 菱目22mm (支柱) 200本 高2.1m * 太17mm (ストッパー) 200本 太30mm * 幅15mm * 長435mm (結束バンド) 1,000本
普通作業員		人				設置手間
普通作業員		人				資材運搬 (人肩運搬)
小 計						
1本当たり						
ha当たり植栽本数	500	本				
ha当たり	500	(本) ×		(円/本)	=	0 (円)

# 食害防止ネット仕様



## 令和7年度 混交林誘導整備事業（整備\_西佐味地区） 事業実施箇所一覧

番号	森林の所在地						森林の状況			備 考
	大字	字	番地	林班	小班	施業番号	樹種	林齢	面積(ha)	
1	西佐味		987	22	イ	193	ヒノキ	65	1.02	
2			1040-1							
3			1040-2							
4			1041-1							
5			1041-2							
6			1041-3							
7			1046-1							
8			1047-1							
小計									1.02	



御所市\_令和7年度 混交林誘導整備事業  
西佐味地区(22-4-193)  
面積:1.02ha(更新面積:0.20ha)





御所市\_令和7年度\_混交林誘導整備事業  
西佐味地区(22-4-193)  
面積:1.02ha(更新面積:0.20ha)

